

# 2024年度 同志社大学大学院 司法研究科

## 履修免除試験問題 法律科目試験

### (刑事訴訟法)

---

#### 第1問 (配点：70点)

次の(設例)を読んで、令状に基づく差押えの要件を論じた上で、下線の差押えの適法性について論じなさい。

#### (設例)

X警察署司法警察員Kは、高齢者Vらに電話セールスで偽の金貨Yコインを売りつけた詐欺事件を捜査していたところ、X市内在住のA(男性)から「同居の息子甲が、闇バイトに応じて、Yコイン詐欺グループのメンバーになり、詐欺のターゲットにする老人達の名簿を自宅のパソコンで作成するなどして犯行に協力している。」旨相談を受けた。

Kは、Aの供述を踏まえて内偵捜査をした結果、裁判官から、被疑者を「甲」、被疑事実を「Vに対する詐欺事実」、捜索場所を「甲方」、差し押さえるべき物を「本件に関する、名簿、パーソナルコンピュータ、ハードディスク等の電磁的記録媒体等」とする捜索差押許可状の発付を得て(この許可状は適法に発付されたものとする)、甲方の捜索を行った。

ところが、実施直前に甲が逃走したため、Kらは、同居人のAに前記許可状を提示し同人を立会人として捜索を行い、甲の居室からパソコンを差し押さえ、さらに外付けのハードディスク(以下「本件HD」という。)2台を発見した。Aから「2台とも甲使用のもので、うち1台が詐欺の名簿作成の仕事用、もう1台は甲の趣味のゲーム用だ。以前、甲から『親父、勝手に触るなよ、勝手に仕事用のものにアクセスすると消去ソフトが作動するようにしている。』と言われている。どちらが仕事用のものなのかは外観では区別がつかず私には分からない。」と説明を受けた。

Kは、このAの説明が信用できると判断し、本件HD2台を設備の整った警察本部で分析した方がよいと考えた。そこで、Kは、本件HD2台について、差押えの現場ではそれらに記録された情報を確認しないまま両方とも差し押さえた。

#### 第2問 (配点：30点)

訴因変更の可否問題における「公訴事実の同一性」について論じなさい。